第242号
発行所　上高井教育会
発行人　上高井教育会理事長　松本孝志
編集人　会報編集委員長　前田博展
印刷所　須坂新聞社

互いに学び共に創る教育会

上高井教育会理事長　松本孝志

本年度、一般社団法人上高井教育会理事長を務めさせていただきます、森上小学校の松本孝志です。もとより微力ではありますが、職務の重要性と責任を深く認識し、教育会発展のために力を尽くして参りたいと存じます。皆様方のご支援とご協力を賜りますようお願いいたします。

上高井教育会は、信濃教育会が発足する一年前の明治十八年（一八八五年）に上高井郡私立教育会として創立され、今年度で百四十年目を迎えます。多くの先輩の先生方が大切にされ築いてこられた「みんなで共に創る教育会」、そして「不易流行」の精神を基にして、「子どもと共に自らの力を伸ばす」職能向上の思いと、「仲間と共に学び、共に創る」協働の思いを引き継ぎ、さらに発展させていきたいと考えています。

さて、多様化する社会の中で、将来の変化を予測することが困難な時代を迎えています。また、社会的変化の影響が、身近な生活を含め、社会のあらゆる領域に及んでいる中で、教育の在り方も新たな場面に直面しています。そこで、私たちは、不易なるものを大切にしつつも、様々な研修を通して、しなやかな自分軸をつくり上げていく必要があります。「研修は未来の自分への投資である」との言葉もありますが、本教育会の事業が皆様方にとっての未来につながる充実した学びの場となるよう努めていきたいと思います。

その事業の中で大切にしている職能向上の大きな柱に、郡研究委員会があります。本年度は信濃教育会研究所所長であり、埼玉大学教授の岩川直樹先生を中心講師として新たにお迎えしました。「子どもと共に創る授業～子どもの学び　教師の学び～」をテーマに、授業を通して互いの実践に学び合い、職能の向上を図っていきたいと考えています。今年度の本教育会総集会におきまして、岩川先生から「かかわりを編み直す教育」として、子どもとのかかわりをこれからの教室や学校の役割をどう考えていったらよいかという視点で多くのご示唆をいただきました。子どもたちの資質、能力を身に付けるだけでなく、子ども同士や教師とのかかわり方と共に、それぞれの子どもと教室という場をいかに編み直すか、先生方と共に研修を重ねていきたいと考えます。

また、同好の仲間が集い、教職員としての専門性や教養を高めると共に、日々の生活を豊かにする同好会も、仲間とつながり合い、共に学び合う貴重な研修の場です。夏休みには、夏期講座として講習・講演等が集中して企画されています。大勢の先生方の参加をお待ちしております。

さらに、夏期講演会では、上田市出身で落語家の立川談慶様をお招きし、『自己啓発と落語噺について～他落語一席～』と題し、ご講演と落語をお聴きします。日々の忙しさから離れ、リラックスしながら、お話や落語を心ゆくまでお楽しみいただければと思います。ご期待ください。

教育会は教職員のため、子どもたちのためにあります。仲間とともに活動する様々な研修は、私たち一人一人の教職員としての資質向上につながります。教育会には、自主的・主体的な研修の場が数多くあります。必要感と誇りをもって、自ら求め参加し、互いに学び合う上高井教育会を共に創り上げたいと願っております。ご協力よろしくお願いいたします。

（森上小）

教育会だより

4・1　各校にて代議員及び信教代議委員選挙
2　第一回総会　○新役員の承認　第一回理事会
10　第一回理事会　会計監査
11　研究世長会①
14　教研三団体代表者会①　教研推進委員会①
17　第二回定時社員総会
○令和六年度事業報告及び決算承認
○令和七年度事業計画及び予算承認
21　教研推進委員会②
28　教研学校代表者会①
5・1　教育会総集会（於／相森中）
中心講師講演会
講師　岩川直樹先生（埼玉大学　教授）
演題「かかわりを編み直す教育」
※研究総委員会・同好会　世長会
6・3　新任者教育懇談会・歓迎会（兼　信州教師塾B）
6　教研推進委員会③
同好会②
10　第三回総会
12　教研分科会　会長司会者打合会
17　研究推進委員会②
27　同好会③
7・1　教研推進委員会⑤（中間連絡会）
5　信濃教育会総集会（佐久・小諸大会）
11　研究委員長会②　中心講師ご指導
教研推進委員会⑥
22　上高井教育会報第242号発行
25　教育会夏期講演会・会員発表（メセナホール）
講演　立川談慶　先生
会員発表　池森　潤先生（相森中学校）
26　研究推進委員会④（中心講師ご指導）
8・25　教研推進委員会⑦　教研学校代表者会②
29～31　同好会夏期講座①～③　同好会④
（兼　信州教師塾B）
28　第四回理事会
29　同好会⑤
9・5　教研推進委員会⑧　教研分科会長会
6　上高井教育研究集会（高山中・常盤中・小布施中）

子どもの持っている力

柴　真凜

高甫小学校へ養護教諭として赴任し、初めての小学校勤務がスタートした。ようやく慣れてきた中で、校歌にも歌われる郷土の山々を登る伝統行事である「全校登山」の引率をした。

当日は、「滑るから気をつけて！」と声を掛け合うなど、保健室では見せない子どもたちの姿にたくさん出会うことができた。

途中、疲れてしまい、集団から離れた子どもがいた。しかし休憩しながらも、一歩また一歩と足を進め、登ることをあきらめなかった。山頂が近づき、先に登頂した同級生の声が聞こえた途端、ものすごい速さで次から次へと足を前に出し、登頂することができた。その姿から、子ども同士の支え合いや、信頼関係は素晴らしい力を生みだすことを教えてもらった。山頂では達成感に満ちた笑顔があふれ、お弁当を食べた子どもたちの体力は完全に復活。笑顔で歌いながら下山した。

近年では安全面から、登山を行う学校は減少しており、実施するには十分な体制の整備が欠かせない。しかし登山には単なる体力づくりだけでなく、粘り強さや仲間との信頼、そして達成感を育む力があると感じた。

養護教諭として、子どもたちの心身の成長を間近に感じられたことは、貴重な経験となった。これからも、「子どもたちの持っている見えない力」を信じ、寄り添っていきたい。

（高甫小）

清涼談義

消しゴムハンコ

消しゴムハンコアドバイザー
小島文子（須坂小学校支援員）

小学生の頃 夢中になっていたこと

雪入さやか

担任している四年生の国語の授業で、先生方に小学生の頃夢中になっていたことは何かを聞く学習活動があった。大事なことを落とさずにメモをとり、わかったことを学級の友達に知らせるのが目的だ。

私も質問に答える必要があるので、小学生時代を思い返してみた。二つのことが浮かんだ。

一つ目は、ほうきで空を飛ぶ練習だ。小学校一年生の時、下校すると録画した『魔女の宅急便』のVHSビデオを再生して観るのが毎日の楽しみだった。主人公がほうきで空を飛ぶのにあこがれて、学校で掃除の時間に、ほうきにまたがって飛ぶ練習を大真面目にしていた記憶がある。

二つ目は、草花探しだ。小学校四年生の時の担任の先生が、身の回りに咲いている草花を見つけ、図鑑で名前を調べていく授業をしてくれた。私はその活動に大いにはまり、それまで数種類しか知らなかった草花の名前を当時は二百種類ほど覚えた。

どちらも楽しい思い出だ。あれから、数十年の月日がたち、大人になった私は、小学校の卒業文集に書いた将来の夢をかなえ、何かに夢中になる子どもの姿から幸せをもらっている。いくつになっても、夢中になれるものを大事にしたい。

（仁礼小）

「めえめえ」との出会い

百瀬広美

学校から三十分ほどの場所にある須坂市動物園にいるヤギの「めえめえ」は、生後数ヶ月で須坂支援学校にやってきました。当初、めえめえの世話は高学年の児童教師が担当し、小屋の建設、餌やり、清掃を行っていました。

当時、自閉症のTくんは、あまり他者とのコミュニケーションを積極的にとろうとしないように私は思っていました。ヤギにも興味を示さず、餌やりにも近づこうとしませんでした。

ある朝、Tくんがめえめえの好物である桜の葉を持っているのを見た私は、めえめえをTくんのもとへ連れて行きました。めえめえが葉っぱを食べ始めると、Tくんは驚いた表情で葉っぱを与え続けました。葉っぱがなくなるとめえめえは去ってしまいましたが、Tくんは「めえめえ、待って！」と叫びかけよりました。

この出来事を境に、Tくんはめえめえの世話を楽しむようになり、ヤギの名前だけでなく、担任や友人の名前も呼ぶきっかけとなりました。私はこの経験から、子どもの好き嫌いや得意不得意で決めつけず、無理のない範囲で多様な経験の機会を提供することの大切さを学びました。主任のS先生は「自閉症のお子さんは他と関わりたくないわけではなく、どうやって関わっていいのかわからないだけ」と話しています。私も子どもたちと共に多様な活動に取り組み、気持ちを共有し、互いの世界を広げていきたいと考えています。

（須坂支援学校）

編集後記

令和七年度会報二四二号を発行し、無事お届けすることができました。ご多用のところ、原稿をお寄せいただきました会員の皆様に、心より感謝申し上げます。

今号の記事に、「昔夢中になっていたことを先生に聞いて友達に知らせる学習を行っている」というものがありました。私自身は何に夢中だったのだろうかと思い出してみると、当時は少年野球のチームに入り、朝から晩まで泥だらけになって白球を追っていた記憶がよみがえりました。今、受け持っている子どもたちの中にも、当時の私の姿と重なる児童が数多くおり、ふと懐かしくなってしまいました。

会員の皆様からのご意見やご感想をいただきながら、より親しみをもって読んでいただける会報を目指して参ります。

（徳武）

委員長　前田博展（高甫小）
副委員長　加藤敦子（小布施中）
事務局　今田晴美（高山中）
委員　上馬場早恵（須坂小）
徳武育（日野小）
市川麻衣子（高山小）
馬場ゆみか（墨坂中）
小林誠（小布施中）

かかわりを編み直す 授業をめざして

研究委員会会長　新井重則

より良い授業を求めて、今年度も十三の研究委員会が発足しました。本会は、上高井教育会の研修事業の一つとして、授業改善の力を高め、子どもたちの資質・能力を育む実践を学び合う大切な場です。

今年度は、信濃教育会教育研究所所長であり、埼玉大学教授でもある岩川直樹先生を新たな中心講師としてお迎えした初年度となります。五月一日の上高井教育会総集会では「かかわりを編み直す教育」というテーマで講演が行われ、学校における人と人との関係性をどう築くかについて深く考える機会となりました。こうした営みは、子どもたちにとって学校の居心地のよさやインクルーシブな学びの土台となることを改めて実感しました。

研究テーマは昨年度に引き続き「子どもと共に創る授業～子どもの学び　教師の学び～」です。子どもの考えを受け止め、つなぎ、レスポンスしていく教師の在り方、子どもの視点に立ち、文脈に即した問いに対して授業を編み直す姿勢を大切にしたいと思います。

八月二十六日には日滝小学校で「信州教師塾Ｂ」が開催され、生活科総合研究委員会が中心となって学びを深めます。岩川先生の直接のご指導を受ける貴重な機会でもありますので、多くの先生方のご参加をお待ちしています。今年度は教育課程研究協議会での授業公開はありません。校種を超えてつながる研究委員会の価値が改めて問われています。

（栗ガ丘小）

知的好奇心を掻き立てる同好会

同好会会長　神田和幸

同好会が本教育会の正規の事業として位置づけられたのは、記録によると昭和二十八年。それから七十有余年、教師としての自己研鎖の精神が脈々と受け継がれ、令和七年度も十八の同好会が発足しました。

私も昨年度の夏期講習会では、地歴の巡検と総合的な学習を考える会のおやきづくりの二つに参加させていただきました。単なる講演や座学と違って、見る、においをかぐ、触る、味わうといった五感を通して学ぶ大変貴重な機会となりました。地歴の巡検では、邸宅や調度品を見ながら、蚕糸業の発展に尽くした人々に思いを馳せたり、おやきづくりでは、「こんな具材を詰めてもおいしいかも」と参加した先生方とアイデアを出し合ったりと、楽しみながら時間を過ごすことができました。

本同好会は「教育会員を中心に同好の者が集まって、教職員としての職能向上を図ることを目的とする」と運営方針に書かれていますが、職能向上を図る上で大切な知的好奇心を掻き立てる場が、それぞれの同好会にはあります。入会は随時できます。まだ会員でない方は、興味関心のある同好会にぜひご加入いただき、仲間とともに語り合いながら楽しく学んでいきましょう。

（高山小）

ＩＣＴの駆け込み寺

ＩＣＴ同好会長　松倉邦幸

「ＩＣＴって、なんだか難しそう…」「今さら聞けない初歩的なことかもしれない…」そう感じて、一人で悩んでいませんか？私たちＩＣＴ同好会は、会員や色々な先生方に、もっと気軽に、もっと便利にＩＣＴを活用してほしいという思いから活動しています。

その活動の一環として、月に一回程度「ＩＣＴ何でも相談会」を開催しています。「タブレットの便利な使い方を知りたい」「このソフト、どうやったらうまく使えるの？」「校務で使っている○○の操作方法がわからない」といった具体的なご相談から、「こんなことができたら便利なのに…」といった漠然としたアイデアまで、内容は何でも構いません。専門的な知識がなくても大丈夫です。皆さんの「ちょっと困った」「もっとこうしたい」に寄り添い、心のモヤモヤが少しでも晴れるよう、私たちがお手伝いします。

どんな些細なことでも大歓迎です。この相談会が、皆さんのＩＣＴに対するハードルを下げ、日々の業務や学習の効率化、そして校務軽減のきっかけになれば、これほど嬉しいことはありません。何かあればＩＣＴ同好会にぜひご加入ください。

（仁礼小）

書道同好会

書道同好会長　藤澤隆之

書道同好会は、上高井教育会の中でも古くから続く同好会の一つです。私が入会したのは今から二十年以上前で、その頃は北島靖啓先生、後には赤堀高峰先生を講師に迎え、一年に一人一作品を仕上げていました。近年はコロナ禍を経て、夏期講習会で小・中学生向けのお手本をもとに、楷書や行書の基本的な点画を練習しています。

同好会の魅力は、講師の先生から直接ご指導いただけることにあります。お手本を見ただけではわかりにくい筆づかいも、先生の実演を間近で学べるのは大きな財産です。先生のような見事な筆づかいはなかなか真似できませんが、字を書く上で大変参考になります。さらに会員の作品について、その場で良い点や改善点を指摘していただけるのもありがたいことです。大人になっても、自分の字に朱墨で大きな丸をいただくと嬉しいものです。

筆を持つ機会が減っている昨今ですが、きれいな字を書きたい、書写指導のポイントを知りたいなど、字に興味のある方は多いと思います。どうぞ多くの方に気軽に参加していただければ幸いです。

（豊丘小）

本校の中核活動

自主性を育む 学級総合

墨坂中学校

墨坂中学校の中核活動は、総合的な学習の時間の「学級総合」です。私が受け持っていた昨年度の三年三組では「墨坂ＳＵＮＳＵＮガーデン計画～花、木、新しい庭で、今と未来の墨坂中に彩りを～」をテーマに活動を行いました。クラスの生徒が、校地内に湧き水が湧いていることを発見し、その水を使って池を作り、庭造りをしたいと発案されたことがきっかけです。二年時に野菜作りや花栽培を行っていた経験から、野菜を地域の方々に買ってもらい、そのお金を元に新たな庭木を買うアイデアも出てきました。更には、庭を眺めることのできる小屋がほしいという案も。結局、①畑班②花栽培班③池造り班④販売促進班⑤木工班のグループに分かれて活動することとなりました。一見これだけのことをやるのは大変に思えますが、一人一人に役割があること、自分たちの発案なので意欲的に取り組めること、野菜や花、販売は一年生の経験を生かすことができることなどのプラスの要素が多く、自主的に動く生徒の姿が数多く見られました。

教師としては、活動を始めるための用具などの段取りや、計画をどう整理してあげるかが大事になると考えていました。例えば販売促進班の活動なら、どうしたら地域の方に野菜を買ってもらえるのか、そこから、いくらなら買ってもらえそうか、ＰＲはどうするかなど、見通しを持って活動ができるよう、生徒と解決策を考え合い、活動の道しるべを共にたてることが大切になると感じました。これらの活動は五つ全てが実現し、生徒達も私も満足して終えることができました。生徒達のパワフルさに感心し、教師として生徒達の自主的な姿から学ぶことが多くあった活動となりました。

（塩野太蔵）

本校の宝 84

栗ガ丘小学校 のびゆく子ら

栗ガ丘小学校は、以前の小布施小学校と都住小学校が完全統合し、今年で五十三年目を迎えます。校歌も学校の歴史と共に五十三年間歌い継がれてきました。

児童に聞くと校歌が好きと答えてくれる人が多くいます。「小布施のよいところがたくさん書いてあって好き」「歌っていると元気が出る」「未来に向かっていっている感じがして好き」と、一人ひとり気に入っている箇所があるようでした。私も、栗ガ丘小学校に赴任して初めて校歌を聴いたとき、特に三番の歌詞、

『のびゆく子には　夢がある
規律を守り　たくましく
真理を求め　美を探る
未来をひらく　鍵を手に』

を聴いて、「なんて素敵な校歌なのだろう」と感動したことを、今でも覚えています。

この三番の歌詞については、作詞者は次のように語っています。『その子どもたちの一人ひとりが、未来へのぞみ、夢をいだいている。その夢の実現のためには、規律を守り、たくましく伸びていかねばならない。真理を求め美を探る高い次元も、彼らの成長によって手のとどくところにある。何故なら、未来をひらく鍵を彼等が学びの中ににぎっているのだから。』

また、六年生の児童は、この三番について「未来に向かって生き生きと、自分の未来を切りひらくように歌いたい」と語っていました。

この校歌には「のびゆく子ら」という題がついています。この「のびゆく」は学校の教育理念にもなっていて、昇降口には、のびゆくの像もあります。校歌の歌詞にもあるように、これからも希望に満ちあふれた子どもたちの歌声が、学校に響いていくことを願っています。

（古屋ともよ）

ＱＲコードで校歌が聞けます